

震災教訓の共有むすび塾@インドネシア（河北新報社と共催）

掲載日:2013年04月22日 (C)河北新報社

震災教訓 国超え共有

むすび塾 インドネシアへ



東日本大震災の教訓を
今後の防災・減災に生か
すため、河北新報社は巡
回ワークショップ「むす
び塾」を23、24の両日、
ワークショップの進行
役は減災・復興支援機構
2004年のスマトラ沖
地震の巨大津波で甚大な
被害が出たインドネシア
（東京）の木村拓郎理事
長が務める。語り部と現
地住民が国境を超えて、
アチェ州の2カ所で開
く。国際協力機構（JICA）が共催する。海外で
の実施は初めて。宮城県
内の被災者3人が震災の
語り部として参加する。

あすからアチェ州2カ所で
原市、高知県四万十町な
どでも開催。住民ととも
に、震災の経験を将来の
地震、津波対策に役立て
る方法を考えてきた。
訪問団には、JICA
が東松島市に配置してい
る地域復興推進員2人も
同行する。
一行は21日にインドネ
シアに入った。26日まで
州都バンダアチエ市、ジ
ヤカルタ市などに滞在。
バンダアチエ市では、集
団移転による住宅再建や
津波博物館、伝承の象徴
となっている「災害遺構」
を視察するほか、市主催
の防災・減災シンポジウ
ムにも参加する。

あすからアチェ州2カ所で

原市、高知県四万十町な
どでも開催。住民ととも
に、震災の経験を将来の
地震、津波対策に役立て
る方法を考えてきた。
訪問団には、JICA
が東松島市に配置してい
る地域復興推進員2人も
同行する。
一行は21日にインドネ
シアに入った。26日まで
州都バンダアチエ市、ジ
ヤカルタ市などに滞在。
バンダアチエ市では、集
団移転による住宅再建や
津波博物館、伝承の象徴
となっている「災害遺構」
を視察するほか、市主催
の防災・減災シンポジウ
ムにも参加する。